

献 辞

北門達男先生は、平成31年3月末日をもって定年退職となりました。北門先生は、平成18年4月に本学経営学部教授として教鞭をとられて以来、教育・研究のみならず、学内運営にも多大な貢献をされました。北門先生のご退職にあたり、これまでのご貢献に感謝するとともに、先生の変わらぬご活躍を記念して、本記念号を献呈させていただきます。

北門先生は、昭和27年、京都府で出生されました。昭和50年に神戸大学工学部機械工学科を卒業後、昭和52年に神戸大学大学院工学研究科を修了されました。卒業研究・修士論文では、「ミニコン直結式組合せ応力試験機の研究」に取り組み、この頃からコンピュータの研究を始められました。同年4月から住友金属工業株式会社に入社され、会社では一貫して鉄鋼製造プロセス制御コンピュータシステムの開発を担当されました。

昭和57年6月から2年間は、米国ノースウェスタン大学テクノロジカルインスティテュート（大学院）コンピュータサイエンス・電子工学科に留学して最新のコンピュータ技術を学ばれ、その成果として Apple IIe を利用したマイクロ波を用いた電磁気物性測定システムを開発されました。帰国後も、鉄鋼製造プロセス制御コンピュータシステムの開発を担当され、7件の社長賞を受賞しておられます。平成3年に本社システム研究開発部ソフトウェア研究室長として、オブジェクト指向システム開発ツール、UNIX、Windows 関連の開発を統括されました。また、平成13年11月から約2年半、海外技術研修協会（AOTS）ITAC コースの講師として、Network Server Construction I・II, Database System Design & Building I・II, UML & Java Object Oriented Design をご担当され、このときに執筆された英文テキストは、本学経営学部の IIP（インテンシブ・インタナショナル・プログラム）でも活かされています。

その後、平成18年4月に本学へ奉職され、システム設計論、プログラム設計論、情報ネットワーク論、情報セキュリティ論等をご担当されました。先生が作成された授業用テキストは、図表やイラストをふんだんに盛り込まれ、説明もとても丁寧でわかりやすく、私も特別に頼んで1冊いただき、今も大事にしています。

ご研究では、システム分析初心者にとって、難解なオブジェクト指向システム分析について、UML を利用することで、容易に分析できる方法を提案しておられます。システム分析に使う UML の図の数を最小限に抑えて、システム分析の公式を与えることで、システム要求仕様を UML で分析する際に、そのポイントをパターン化することによりオブジェクト指向システム分析を容易に習得できるということを明らかにされました。

このような教育・研究活動に加えて、学内運営に関しては、平成25年10月から7年間、経営学科 IT ビジネスコース主任を務められ、IT ビジネスコースの立ち上げ時からその運営にご尽力され、MIPS 室長として MIPS 更改工事にも積極的に協力していただきました。

学外においても、日本創造学会関西支部長を務められ、2度にわたる研究発表会開催にもご尽力されました。

北門先生には、これからも健康に十分留意されて、より充実した日々を過ごされますことを心より祈念いたしております。併せて、この退職記念号に玉稿をお寄せいただいた執筆者の各位ならびに編集委員会の労に対し、心より厚くお礼申し上げます。

令和元年7月

近畿大学経営学部長
羽 藤 憲 一